派遣先所属　岩手県保健福祉部長寿社会課　　氏名　岡戸　豊
派遣期間　　平成２４年４月１日～平成２５年３月３１日

１　派遣業務の内容、現況

派遣先の岩手県長寿社会課の所掌事務は、埼玉県庁の高齢介護課と概ね同じです。それに加えて、被災地の高齢者の介護予防等のソフト事業及び老人福祉施設等の災害復旧事務などが震災後新たに発生し、これにより人員不足のため派遣職員を受け入れています。私は、主に後者の老人福祉施設等の災害復旧の事務を行なっていますが、災害復旧の事務ばかりではなく、最近はだんだんと通常事務を行うことが多くなってきています。昨年度は、災害復旧施設の件数も多く流れ作業のような事務だったようですが、現在では件数が少なくなってきた一方で、例えば、全半壊し別の用地に建て替えるなどの単年度では解決することが困難な事例などのように、数から質へ災害復旧の内容が変化してきています。そのため、長期にわたる案件は岩手県職員が行ったほうが一貫性の観点からも良く、その代わり通常事務のフォローをしていくといった事務配分に変化してきています。

したがって、前半は、災害復旧補助事業（老人福祉の施設・設備・自家発電装置等の補助事業）に関することが主でしたが、現在は老人福祉施設の耐震化・介護保険財政安定化基金の市町村交付・介護情報サービスの公表などの他の都道府県でも行なっている通常事務が主になってきています。

赴任した最初の頃は、前任の東京都派遣職員からの引継ぎも制度上なく、起案のあげ方、伝票の打ち方、地名も分からず、例えですが５分でできることを１時間もかけてしまうような苦労することがありました。しかしながら、県職員をはじめとして事業者や県民など岩手県の県民性がおおらかで優しく礼儀正しいところがあるため公私共々助けられて今に至ります。

事務分担の面では、災害復旧事務等イレギュラーな事務があるため業務量が計りにくく組織として苦労しているようです。これに対応するのに有効的な取り組みとして、私の担当では毎月ミーティングを開催し、先月の事務状況と今後の予定・懸案などを発表し柔軟に事務分掌を変更しています。この取組は、個人としては目標による管理の考え方にも繋がり、全体としてはチームとしての業務対応ができるなど利点が多く良い取組だと感じています。

２　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

災害復旧が主業務であるため、岩手県内の沿岸市町村は全て行くことができ貴重な体験をさせていただいています。全半壊した老人福祉施設や仮設の老人福祉施設などをいろいろと見させていただき、被災地域の声を直接聞くことができました。

全半壊した老人福祉施設は、図面など施設の資料が施設とともに津波でなくなっており、さらに補完するはずの市役所や建築事務所なども同様に被害を受けているため、災害復旧の査定

を受けるまでに１年半以上かかっています。さらに、追い打ちをかけているのは、市町村の災害復興計画の進行が遅れているため、どこに新しい街を築くのかが定まっていない状況であり、事業再開の用地確保が遅れています。

また、軽微な被害で再開しようとしている施設も、工事の段階で工賃高騰、工事業者や資材不足で工期が遅れるなどの影響を受けています。さらに、工事が完了したとしても、介護職員が亡くなったり転居したりで人材が不足し再開が遅れる状況となっています。このように復興に向けては、一つクリアーしてはまた次の課題にぶつかるといった状況で本格復興に向けては時間がかかっている状況です。

▲大船渡市にある被災した老人福祉施設
（在宅介護支援センター、特養等の施設の入り口）

▲４月沿岸部視察（釜石市内）[左が課長,中央が主査,右が自分]

余談ですが、先日はボランティア休暇を使い、陸前高田に公園を作るボランティア活動に行ってきました。筋肉痛となって、普段の運動不足を実感する結果になりましたが、悲しみを乗り越えた被災地の方々の笑顔と感謝の言葉は私に生きる喜びを感じさせてくれました。

岩手県生協が主体となって、毎週このようなボランティア募集を行なっていますので、御関心のある方はぜひ埼玉からでも御参加いただければ幸いです。盛岡から無料バスが出てツアーで行きますので初心者でも安心して参加できます。

▲陸前高田の公園作りボランティア（ふれあいひろば）

派遣先所属　岩手県保健福祉部長寿社会課　　氏名　金子　友樹
派遣期間　　平成２４年４月１日～平成２５年３月３１日

１　派遣業務の内容、現況

派遣先の長寿社会課では震災対応として、被災地の高齢者福祉施設の復旧や高齢者の健康増進に関する業務を行っています。東日本大震災津波により老人福祉施設の約４分の１の施設が全壊又は一部損壊の被害を受けました。また仮設住宅では高齢者の孤立化、生活不活発病（動かないことが原因で心身の機能が低下した状態）が問題となっています。

私の担当業務は、被災地の高齢者向けの運動教室やイベントの開催、市町村が実施する高齢者向けの事業に対する補助金交付事務等です。NPO 法人等に業務委託して事業を実施しています。

運動教室は、仮設団地の集会所等で実施しています。参加者の大半は女性で、毎回楽しみにされている方もいます。閉じこもりや孤立化といった問題は男性に多く発生しています。

高齢者向けのイベントでは高齢者向けのサークル紹介や、ステージイベント、郷土料理のふるまい等を行っています。ステージで発表する高齢者の団体は入念に準備して素晴らしい発表を行っています。業者に委託して実施している事業ですが、日曜日に沿岸各地で開催しているため、観光を兼ねて個人的にも参加しています。

沿岸の被災地までは勤務地の盛岡市から車で２時間以上かかることもあり、仕事として直接被災地行く機会は非常に少ないです。派遣当初は書類と電話のやり取りばかりで、被災地派遣の実感がほとんどありませんでした。また、今まで保健福祉分野の経験がなく、福祉の専門用語、地名、岩手県の組織、関連団体等を覚えるのに苦労しました。

保健福祉部には他の自治体からの派遣職員が 14 人いますが、直接被災地関連業務を担当していない派遣職員もいます。私は被災地派遣について被災地の自治体を支援することが目的であって、震災復興業務を担当することが目的ではないと考えています。今後も被災地の復興のため、努力していきます。

２　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

４月末に初めて出張で陸前高田市に行きました。盛岡市内では震災の影響を感じることが全くないため、沿岸の被災地を初めて見て驚きました。既にがれきの多くは整然と積み上がっており、道路はほぼ整備されていました。更地に鉄筋コンクリートの建物のみが残されていて、中が被災当時のままとなっている建物もあり、被害の大きさを実感しました。

仮設団地も何箇所か見学させていただきました。仮設住宅は建てられた時期、メーカーによって外観も中身も千差万別で、一般的に後から造られた住宅ほど快適な作りになっています。大規模な仮設団地ですと、メーカーや工事時期が異なる住宅が同じ敷地にあるため、住民の間に不公平感が生じてしまっているそうです。

被災者支援は仮設団地を中心に実施されることが多く、仮設住まいではない住民との間にあつれきが生じてしまっているそうです。また大きな仮設団地では様々な支援が入っていますが、小規模の仮設住宅には支援があまり入っていません。

市町村の職員の方に聞いた話ですが、市町村として被災者支援を行う場合、公平性を考慮することが難しく、身動きが取れないことが多々あるそうです。

派遣先所属　岩手県保健福祉部長寿社会課　　氏名　高橋　美帆
派遣期間　　平成２４年４月１日～平成２５年３月３１日

１　派遣業務の内容、現況

派遣先の長寿社会課は高齢者の福祉に関する業務を行っております。私はその中で、主に被災地における介護事業所の人材確保の事業を担当しています。甚大な被害を受けた沿岸市町村にある介護サービス事業所では、他の被災施設から利用者の受入れや、自宅が被災したため在宅で介護を受けることができなくなった方の収容等により、定員超過で稼働している状況であり、また、事業所自らが被災し、その復旧作業に人員を割かなければならない状況にあります。そのため各事業所において人員不足が生じていることから、被災失業者を雇用することにより事業所の人員不足を解消し、サービス提供体制の強化及びサービスの質の向上を図っています。また、被災地域における雇用機会を創出することにより、被災地における被災失業者の生活の安定も狙いとして事業を進めています。

しかし、このような事業を行っていても介護人材の確保というのは難しく、常に人手が足りないという現状があります。この現状は被災地だけでなく全国的にも課題となっていますが、震災の影響で生活が一変し、要介護・要支援となった人が増えた岩手、特に被災沿岸部においては介護サービスを受けたくても、満足に受けられないという深刻な問題となっています。

当課ではこの問題を改善すべく、この事業を推進しつつ、さらなる今後の対策としての事業案を検討しているところです。

※写真は被災した介護老人保健施設です。

派遣前はテレビ等の報道で被災状況を知るだけでしたが、実際に被災現場を目の当たりにすると、震災の恐ろしさを実感し、より一層復興支援への思いが強まりました。現場をみるということはとても大切で、色々なものを感じとることができます。

２　支援について

岩手県には全国各地から沢山の応援職員が支援に来ていて、皆復旧・復興のために力を尽くしています。様々な自治体が関わると、情報量や経験が豊富に行き交うので、より良い選択をすることができます。今回の派遣業務では震災復興支援が目的なのはもちろんのことですが、他自治体と交流し、業務方法について学ぶことができることが私にとって良い影響となっています。また、そういった支援業務に当たる者同志に交流があることで、知らない土地での悩みや不安が解消され、業務に打ち込んで行けるという面もあると思います。引き続き協力しながら、頑張っていきます。

そのほか、岩手県の有名なお祭りである「盛岡さんさ踊り」に自治体ゆるキャラパレードがあり、埼玉県職員として参加しました。これは、応援職員の存在・活動をアピールすることで、復興の復興の歩みを伝え、震災を風化させないための取組で、多くの自治体が参加し、我が県の誇るコバトンも参加しました！

被災地の派遣では、復興という一つの目標に向けて協力する、現地職員と応援職員のつながりを感じることができます。もしも、将来同じような状況が我が県に起こったとしても、今回のようなつながりがあれば、どんな困難も乗り越えていけるだろうと、そんな風に思います。今回の派遣で学んでいることを、埼玉県での業務で生かしていきたいです。